

あたらしくはいった本 (令和5年4月 貸出開始資料から)

- 小説 誰に似たのか(中島要/著) #刑事の娘は何してる?(新堂冬樹/著) はるか、ブレーメン(重松清/著) うたかたモザイク(一穂ミチ/著) 夜のだれかの岸边(木村紅美/著) ユーチューバー(村上龍/著) 殺戮の狂詩曲(中山七里/著) キツネ狩り(寺島曜/著) 合理的にあり得ない(柚月裕子/著) 虚心(吉川英梨/著) ドS刑事(七尾与史/著) 勿忘草をさがして(真紀涼介/著) 五月 その他の短篇(アリ・スミス/著) 文明交錯(ローラン・ピネ/著)
- 随筆・詩などの文学 糸暦(小川糸/著) 館内すべてお雛さま。(川上弘美/著) 文豪たちの嘘つき本(彩図社文芸部/編) だげどぼくらはくじけない(井上ひさし/著) 九十歳、イキのいい毎日(宇野千代/著)
- その他の本 子どもにかかるお金の超基本(坂本綾子/著) 図解でわかる土地・建物の税金と評価(富田建/著) ランプシェード(松岡享子/著) クジラの歌を聴け(田島木綿子/著) 車いすテニスの革命(本條強/著) 古代エジプトの女王(カーラ・クローニー/著)



『誰に似たのか』
中島要
中央公論新社



『#刑事の娘は何してる?』
新堂冬樹
朝日新聞出版



『文明交錯』
ローラン・ピネ
東京創元社

みんなの としょかん



市民図書館

TEL (921) 4646
FAX (921) 4896

としょかんカレンダー

令和5年	日	月	火	水	木	金	土
6					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	

○印の日は、お休みです。
開館時間 午前10時から午後6時まで
金曜・土曜(祝日除く・太字の日)は午後7時まで

特別整理期間のため
右の期間はお休みです

市民図書館
すくすく号 6月19日(月)~30日(金)

本は図書館の「ほんのポスト」に返却ができます。ただし、CD・DVD・ビデオは壊れるおそれがありますので入れることができません。

御供屋別当信興、牛車を新調する

戦国時代の天文17(1548)年3月、太宰府天満宮社家の御供屋別当信興が神事の際に牛車に乗ることを許可されました。許可したのは公家の菅原長敦で、これを仲介したのは守護の大内義隆でした(広報だざいふ2月号No.1017で紹介しています)。この話には続きがあり、許可を得た信興は自分が乗る牛車を新たに造り始めます。



～公文書館だより⑩～

このことであり、信興は牛車に総じて使われる「八葉」を用いるように、というものでした。しかし、実際には信興の家紋も小鳥居家と同じ「五梅」であり、義隆もそれは承知していました。にもかかわらず一般的な「八葉」を使うよう指示したのは、信元に配慮して、その望み通りにしたのだろうと思われまます。すなわち、信元は自分の家と同じ家紋を信興が牛車に付けるのを好まず、これを阻止すべく大内氏に訴えていたということなのでしょう。

ところが、許可に反対する意見が留守職(天満宮の現地における最上位の役職)の小鳥居信元を始め社家たちから出されてきました。彼らは自分たちの考えを大内氏に進言しますが、義隆はそのまま許可する話をまとめました。ただし進言を部分的に受け入れて、幾つかの指示を出しています。

そのうち一番の焦点となったのが、牛車に付ける家紋についてでした。信元からは、家紋について大内氏に何度も申し入れがあり、義隆はそれを考慮した上で信興に指示しました。その内容は、家紋は小鳥居家が「五梅」、大鳥居家が「亀甲に五梅」、執行坊が「八葉」

他にも、神事の際に牛車を止める位置については執行坊の次とし、今は執行坊が出頭しないので大鳥居の次とする、という指示も出ており、ここでも小鳥居らの意見が反映されていると思われる。

このように牛車に乗るなら乗るで、どういふ牛車に乗るか、どこに止めるか等々、周囲とのトラブルを避けるために細々と気を配る必要があったことが分かります。

太宰府市公文書館 大塚 俊司

【バックナンバーはこちら】 ページID7241